

Doc.No : NR011009

2001年10月9日

業界最大サイズのガラス基板に対応したTFT用 液晶製造装置コーター / デベロッパとカラーフィルター用コーターを発売

大日本スクリーン製造株式会社(本社：京都市上京区 / 社長：石田 明)は、このほど、業界最大のガラス基板サイズ1,000×1,200mmが処理できるTFT用コーター / デベロッパ「SK-1000G」とカラーフィルター用コーター「SF-1000G」を開発、10月12日から販売します。

「SK-1000G」は、液晶製造の前工程の中のフォトリソプロセスで使用する装置で、液晶パネルとなるガラス基板に感光液(レジスト液)を塗布し、さらに露光されたレジスト液塗布済みの基板を現像します。この装置は、800×950mmのガラス基板サイズに対応した「750シリーズ(1999年10月発売)」をスケールアップした装置で、1,000×1,200mmと業界最大の基板サイズに対応しています。業界でトップシェアを誇り、高い評価を得ている「750シリーズ」の設計コンセプトを継承し、汚染の原因となるパーティクルの付着を抑えています。さらに、ガラス基板の支持方式を改良し、大型化に伴って発生する塗布・現像ムラや搬送時のたわみを防止すると同時に、レジスト液・薬液・純水のランニングコスト低減、温度・現像管理による高精度処理、省スペース設計、高生産性を実現しています。また、インライン検査装置が装備でき、品質と歩留まりの向上を図っています。

「SF-1000G」は液晶用カラーフィルターの製造工程に使用するコーターで、FPD業界にとって重要な課題となっているレジスト消費量の大幅な削減を実現しました。さらにカラーフィルター材料特有の課題(粘度や膜厚など)に対しても「スリット&スピン」方式による塗布を採用し、色ムラのない優れた塗布性能を達成しています。

これらの装置は、第5世代サイズと言われる1,000×1,200mmをサポートすることにより、基板1枚当たり15インチの液晶パネルで12面(750シリーズは6面)、18インチパネルで9面(750シリーズは6面)、24インチパネルで6面取りが可能です。パソコン用ディスプレイがCRTから液晶パネルへ、そしてテレビがカラーブラウン管から液晶パネルへと替わる中、より大きな液晶パネルをより効率的に生産することが求められています。当社は、こうした市場ニーズに対して、より大サイズのガラス基板に対応した液晶製造装置の開発に注力しています。

なお、両装置とも10月31日から横浜で開催されるLCD・FPD International 2001展に出品します。

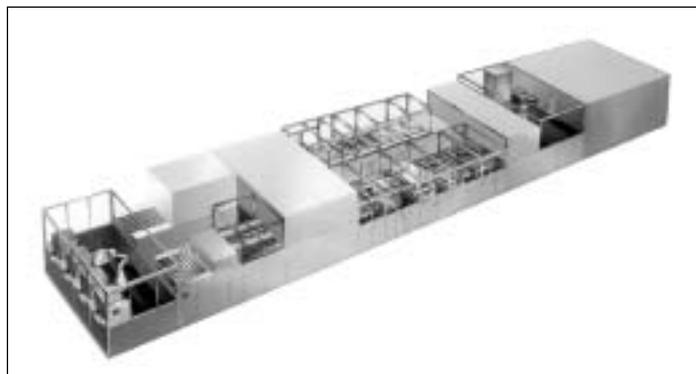
< 販売予定日 > 2001年10月12日

< 国内販売価格・税別 >

SK-1000G	6～8億円
SF-1000G	2.5～3億円

< 年間販売目標 >

SK-1000G	10台
SF-1000G	20台



業界最大サイズのガラス基板に対応したTFT用コーター / デベロッパ「SK-1000G」

この画像の印刷用データ(解像度300dpi)は、下記URLよりダウンロードできます。
(<http://www.screen.co.jp/press/photo.html>)

●本件についてのお問い合わせ先

大日本スクリーン製造株式会社 本社広報室：Tel 075-414-7131 Fax 075-431-6500 〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上ル4丁目